

第三者評価結果

児童養護施設 小野田陽光園

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・職員は、「児童毎日会」をはじめ、日々子どもの話に耳を傾けることを意識し、子どもからの要請や職員自身が子どもの変化に気付き声をかけて対応していることがヒアリングで確認できた。・子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に支援されているが、実際の対応についてはそれぞれの職員の見解は異なり、見極めが難しいと思われる。職員会議等での振り返りだけでなく、リアルタイムで意見交換ができる柔軟な対応が望まれる。・学齢や発達障害等、個々の状況に応じて適切な環境を用意するよう努めているが、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを的確に把握し、更なる社会資源等の活用が望まれる。</p>	
(2) 食生活	第三者 評価結果 (abc評価)
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・アレルギー対応食や日々の残食チェック、年1回の嗜好調査が行なわれ、それらが反映された献立となっている。更に、年齢別の栄養表を活用し、子どもの発育段階に応じて必要な栄養摂取にも配慮している。その他にも、週1回のお好み献立や学期毎の調理体験実習、退園前の調理実習、祝い事の外食など、食育の推進に力を入れている。・破損箇所は迅速な対応を行っていることがヒアリングで聞き取れた。居室等施設全体がきれいに整備され、隅々まで掃除が行き届いていることで、子どもをきれいな環境で養育するという園の姿勢が感じられた。</p>	

(5) 健康と安全	第三者 評価結果 (abc評価)
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・幼児において、食欲や排便の有無、睡眠の様子を日誌に記録して残し、平常の健康状態や発育状態を把握している。・保健担当の職員が学校や嘱託医と連携し、日々の健康状態の把握や感染症予防など熱心に健康管理に努めている。・子どもの年齢、発達段階に応じた性についての正しい知識、関心が持てるような支援が求められる。必要に応じて外部講師を招くなど、性教育のあり方について学ぶ機会を職員や子どもに対して確保することを望む。</p>	

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果 (abc評価)
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	b
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・個人アルバムが作成され、子どもの閲覧要求に対応できるよう配慮し、職員と一緒に成長の過程を振り返ることができている。・行事の際には子どもたちが主体的に関わる機会もあるが、子どもの趣味や興味にあったプログラムになるよう子どもの意見を反映させ、適宜変更できるよう工夫されたい。・子どもたちには、個々に小遣い帳を使って金銭の自己管理を行い、計画的に小遣いを使用するなど、金銭感覚が身につくよう支援している。</p>	

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果 (abc評価)
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・学習担当職員を置き、連絡帳や宿題のチェックをするなど学習環境の整備を行っている。学習室の机を職員の手作りで衝立を作り、集中できない子どもを少しでも落ち着いて勉強できるように個別のスペースを設けるなどの配慮を行っている。・社会経験の拡大に向けた各種の資格取得や職場体験、職場実習を推奨し、アルバイトも学校の許可の下、支援している。・進路指導にあたっては、保護者や学校、児童相談所、事業主と密な連携をとり、子どもの不安を受け止め、決め細やかな相談を継続されることを望む。</p>	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	b
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・心理職員を配置し、心理的支援以外でも子どもと関わる業務の一端を担っている。自立支援会議に参加し、自立支援計画に基づいた心理的ケアを実施している。心理的支援の必要な子どもの医療機関受診の際には同行し、医師の所見を担当職員に伝えると共に、アドバイス等を行う体制がある。職員の求めに応じてメンタルヘルスケアを行っている等、心理的支援が施設全体で有効に組み込まれている。・子どもの問題行動に関して適切な対応が取れるように、援助技術の習得や、支援体制の更なる充実が望まれる。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果 (abc評価)
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・措置変更や受け入れに当たっては、退所や移行前の支援、適切な引継ぎなど切れ目のない養育・支援がスムーズに行われる体制の充実が求められる。・家庭引き取りにあたっては、児童相談所や関係機関と十分協議をした上で実施されている。家庭復帰後の支援については可能な限りの対応を行っているが、今後積極的に取り組んでいくためにもアフターケアを業務の一つとして位置づけるような具体的な取り組みを工夫されることを望む。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果 (abc評価)
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・虐待ケースで、家族再構築に向けて児童相談所とプログラムを作り実施した実績がある。家庭支援相談員が配置され、児童相談所や各関係機関との連携がしっかりとされている。・面会、外出、一時帰宅等は、手順があり、それを職員が周知し実施されている。・親子関係の再構築のため、保護者と良好な関係を保ち、親子が一緒に生活する課題の解決に向けての支援など、積極的な取り組みが望まれる。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	c
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・多職種の関係職員の意見を基に、個々の子どもの自立支援計画が策定され、その計画に基づく養育や支援が実施されている。・課題解決のための目標設定と目標達成に向けた具体的な支援に反映できるように、子ども一人ひとりのケース記録が適正に記録されている。子どもや保護者等に関する記録については、個人情報保護と情報開示の2つの観点からの管理規程の策定が望まれる。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	c
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・月1回の聞き取りを業務として組み込み、子どもとの話し合いの時間を確保すると共に、これを基に研修会を実施し、個々の児童の養育支援に反映させている。・子どもの尊重した養育・支援についての基本姿勢の明示に留まるだけでなく、施設全体の質の向上を図るため、職員一人ひとりの専門性・協働性を高める積極的な取り組みが望まれる。・子どものプライバシー保護については、子どもの尊重の基本となるもので、子どもからの信頼を得るためにも、プライバシー保護に関する規程やマニュアル等の整備が望まれる。</p>	

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果 (abc評価)
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b

(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	c
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・入所時には、施設からのお願ひ伝達事項だけでなく、養育・支援の内容を子どもや保護者に正しく理解できるように、できるだけ分かりやすく伝えるための工夫が求められる。・職員は、子どもからの聞き取りや毎月の研修会、日々の引継ぎ等により、不適切な関わり防止や早期発見に努めている。・地域の障害者との運動会や近隣の老人施設との交流を通じて、他者を思いやる心を育まれるよう支援している。・子どもや保護者からの意見の対応マニュアルを整備し、意見や苦情を述べやすい工夫をされることが望まれる。</p>	

5 事故防止と安全対策

	第三者 評価結果 (abc評価)
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・子どもの安全を確保する上での各種マニュアルが作成され、組織としての管理体制が整備されている。・毎月、避難訓練を実施しており、食料の備蓄を整備すると共に、子どもたちに備蓄食を食べる機会を設け、災害に対する心構えを伝えている。・器具や遊具の安全点検を定期的実施し、ヒヤリハット事例を現場から集めて会議で検討している。収集した事例については、発生要因を分析し、事故を未然に防ぐための、更なる積極的な取り組みが望まれる。</p>	

6 関係機関連携・地域支援

		第三者 評価結果 (abc評価)
(1)	関係機関等の連携	
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)	地域との交流	
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	c
(3)	地域支援	
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・社会資源については、リストが作成され職員間で情報の共有化が図られている。・児童相談所や学校と連絡を密に取り、子育てネットワークにも参画し、事例検討等で情報の共有化が行われている。・子ども会や自治会活動への参加だけでなく、地域ニーズに基づいた子育て短期支援事業やフリールームを実施するなど、施設の機能を活かした子育て支援を積極的に行っている。・ボランティアの受け入れについては、基本姿勢の明文化、受け入れマニュアルの作成、保険等の加入について検討されたい。</p>		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果 (abc評価)
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・事業計画の中に、職員が目指す基本方針は明示されているが、知識・技術等の専門性についての職員のあり方を具体的に明確にした更なる基本姿勢の明示が望まれる。・研修担当職員を配置し、外部研修への参加を計画的に実施しているが、単年度での計画に留まっている。研修計画は、職員個々が課題を持って主体的に学べるように、個別の評価分析を行い、次の研修計画に反映できるよう、職員別の研修履歴の作成等の工夫が望まれる。・スーパービジョン体制が機能していて、日常的に職員の相談については迅速に対応できている。</p>		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者 評価結果 (abc評価)
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	c
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・理念や基本方針が明文化され、職員に理解を促す取り組み（年度当初の施設長からの説明及び新任職員への説明）が定着して実施されている。・児童や保護者に対して、理念や基本方針をわかりやすく説明した資料を作成するなど、理解しやすいような工夫に取り組まれることを望む。・中、長期計画は、組織の理念や基本方針の実現に向けた具体的な取り組みを示すものであり、各年度の事業計画にも反映されるものなので、策定が望まれる。</p>		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果 (abc評価)
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③	外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a
④	運営内容（決算内容等）の開示が適切に行われている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・施設長は養育支援全般において実態を把握し、支援のあり方や考えを文書で周知しており、職員会議や援助会議の中で職員の研修機会を設け、職員の意識向上に努めている。・外部の公認会計士による指導を受け、経営改善に取り組んでいる。・社会的養護の動向、施設を取り巻く地域の状況の変化を把握し、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されることを望む。・インターネット等を活用し、運営内容（決算内容等）を積極的に開示されることを望む。</p>		

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果 (abc評価)
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・福利厚生のための互親会の設置を始め、有給休暇の取得時に職員の意向を聞いたり、加配職員の配置に取り組むなど、現場の実態に応じた職員の処遇充実に向けた取り組みがヒアリングで確認された。・実習生の受入れについては、「実習生のしおり」を作成し担当者を置いて指導を行っているが、実習内容のプログラム化や実習生受け入れに関する意義・方針が明文化されてないので、今後取り組まれることを望む。・施設の目指す職員像は明文化されているが、具体的な目標を設定し、実現に向けての計画的な人事管理が進められることが望まれる。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果 (abc評価)
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・毎日の引継ぎや職員会議等で養育支援等の共通理解や共有認識を図り、不明な点は常に主任に相談するなど、標準的な実施方法は文書化されているが充分とはいえない。職員は交代勤務で養育や支援にあたるため、安全性を含めて一定の水準以上の養育支援を提供し、個々の子どもの状況に応じるためにも、職員が柔軟に対応できる実施方法の文書化の改善が求められる。・今回の受審結果から明確になった課題について、自己評価と同様に全職員で改善策や改善実施計画の策定が望まれる。</p>	